215531
6
昭和25年10月18日

明治九年二月二日

大臣
参議
卿輔

法制局
大史

別紙内務省伺米穀相場會社條例改正ノ儀審按候処更ニ所有限ノ術ヲ解キ現場定現ノ取引ヲ定其他過怠科罰金ノ方法ヲ設ケ專ラ空米相場ノ弊害ヲ矯正スルノ主意ニ出ルハ言ヲ待ス候処元来米穀會社ノ性質タル相場営業者ノ所謂相場師ト云ハサルヲ得ス故ニ何様ノ厳制ヲ設クルモ此會社ヲ創立スル限リハ則依然タル相場ノ取引所ニシテ條例ノ効能ヲ見ルニ至ラサルハ必定ナルヘシ若又ニモ現米取引ヲ為

サシメントナラハ之ヲ自由ノ売買ニ附スルモ敢テ差支（サル儀ニ有寧ロ有名無実ナル會社ヲ建立シ多岐繁雑ナル條例ヲ設ケサルノ勝レルニ如カス且右會社ノ從来ヨリ安ニ創立シ能ハサルハ其弊ノ四方ニ延蔓スルヲ防ク為メナリ今ヤ俄然其制ヲ解キ之ヲ自由ニ任スルキハ其毒ヲ各地一般ニ傳遍シ終ニ制シカタキ勢ニ至リ可申最當府下ハ勿論大阪下ノ関ノ如キ各地通達ノ要港ニ有之該社ノ営業上ヨリ幾分カ運輸ノ道ヲ開キ價格平均ノ嫌ハヲ成シ其利害モ亦不少ト相考候間從前ノ通リケ所有限ノ制ヲ存シ更ニ簡易ノ方法ヲ編ミ御頒布相成候方可然哉依テ御指令按取調仰高裁候也

御指令按

伺ノ趣ケ所有限ノ制ヲ解候儀ハ不都合ニ付從前ノ振合ニ拠リ更ニ簡易ノ方法取調可伺出事

法制局第十號

勸第五千五百六拾六号

米穀相場會社條例改定ニ儀ニ付伺

米油限月賣買之儀ニ付テハ追々及上申置ニ通リ昨八年六月中大藏省ヨリ事務引継以来諸書類等及調査ニ處同年五月同省ヨリ甲第拾六号ヲ以テ致頒布ニ米穀相場會社準則之旨趣及ヒ其目的ニ於テ明瞭致シ兼ニ次第モ有之其他右業体ニ就テ疑團ノ廉モ不少ニ付兼テ司法省ニ雇佛人法律博士ボアソナートヘモ縷々質問ヲ遂ケ尚實際ノ景況照考ニ抑モ此営業タル米穀一般ノ流通ニ関シ實際止ム可カラサルノ商業ニシテ其取引上ニ於テハ重大ノ損益ニ相係リ然ヨリ自然一種ノ弊害ヲ醸シ其勢恰モ賭博ニ類似スルモノアリ故ニ今其弊害ヲ矯正セシ為メ約定

ノ期限必ス現物ノ取引ヲ為サシムルノ制ヲ設ケ又其訴
ルヤ審判ノ際賣買ノ目的ニ非スシテ若シ賭博ノ目的
タル時ハ一切之ヲ受理セサルモノト做シ且從來ノ東京
商社ニ於ケル猶將來ノ目的ニ於テモ深ク弊害ノ在ル
所ヲ察シ箇所有限ノ術ヲ施サントスルモ実際其効
驗ヲ見ルニ足ラサルノミナラス特許專賣却テ其公平
ヲ失シ為メニ各地方ノ紛議ヲ釀成スルハ必然ノ勢ニ付
今ヤ箇所有限ノ制ヲ解キ專賣ノ術ヲ止メ以テ此
條例ヲ遵奉スルモノ一般之ヲ許可スヘキヲ改定ノ旨趣
トシテ專ラ現今所在営業ノ事實ヲ照量シ併セテ
株式條例及ヒ準則ヲ斟酌シ別冊編制スル所ノ米
商會所條例更ニ御發布相成候様致シ度仍テ
御布告案并ニ布達案共相副此段相伺候也

明治九年一月十四日　内務卿大久保利通

太政大臣三條實美殿

御布告案

明治七年十二月第百三拾八号ヲ以従来各地方ニ於テ
米油限月賣買差許置ヲ以一切差止ヲ条自今
會社ノ結ヒ云々及布告置ヲ處今般更ニ米商會所
條例別冊ノ通制定ヲ条其営業致度者ハ右ニ
照準可願出ヲ此旨布告候事

明治九年一月　太政大臣三條實美

布達案

本年太政官第　号ヲ以布告之趣モ有之候ニ依テハ茶穀相場會社之儀ニ付昨八年大蔵省甲第拾六号同第拾九号及ヒ六月心得達之趣共總テ取消ス条此旨布達候事

明治九年一月

内務卿大久保利通

茶商會所條例

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 266-5

布達案

本年太政官第　号公布之趣モ有之候ニ依テハ米穀相場會社之儀ニ付昨八年大藏省甲第拾六号同第拾九号及ヒ六月心得達之趣共總テ取消候条此旨布達候事

明治九年一月

内務卿大久保利通

米商會所條例

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 266-5

米商會所條例

目次

第一條　緒言
第二條　商會所創立ノ手続
第三條　開業ノ手続
第四條　役員ノ規則
第五條　役員撰挙ノ規則
第六條　頭取肝煎ノ職任
第七條　商議員ノ職任
第八條　出納員ノ職任
第九條　検査員ノ職任
第十條　株主ノ規則
第十一條　株式授受ノ規則

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 266-5

第十二條　社員ノ規則
第十三條　社員年代ノ規則
第十四條　商会所一般ノ規則
第十五條　賣買取引ノ規則
第十六條　手數料並ニ口銭ノ規則
第十七條　背則違約處分ノ規則
第十八條　總會集議ノ規則
第十九條　資本金増減ノ規則
第二十條　損益金計算ノ規則
第二十一條　納税及ヒ積金ノ規則
第二十二條　報告ノ規則
第二十三條　官員検査ノ規則
第二十四條　記録保存ノ規則

第二十五條　條例改正ノ規則
第一號　創立証書ノ雛形
第二號　申合規則ノ雛形
第三號　開業免状ノ雛形
第四號　実際報告ノ雛形
第五號　計算表ノ雛形
第六號　役員上仕報告雛形

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 266-5

米商會所條例

第一條　緒言

第一節　凡ソ米穀流通ノ為メ之ヲ緊要ナリトスル地ニ於テ協同結社此商會所ヲ創立スルヲ許可シ而シテ其事務ハ都テ内務卿ニ屬シタル勧業頭ノ管轄タル可シ

第二節　商會所ノ營業ノ年限ハ須テ五ヶ年ヲ以テ一期限ト定ムヘシ右期限了ルノ際ニ臨ミ猶永續ヲ望ム時ハ更ニ其趣ヲ申立テ地方官ノ兼認ヲ経内務卿ノ許可ヲ受ク可シ

第三節　商會所ハ法律ニ於テ商業ヲ為スノ人ヲ除ノ外ハ何人ニテモ亦何箇所ニテモ之ヲ創立

内務省

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 266-5

スルヲ願フヲ得ヘシ

第四節　商會呼ニ於テ為シタル賣買取引ヨリ生シタル爭論ニ付裁判所ニ出訴シタルニ審問ノ際原告被告双方ノ者米穀賣買ノ目的ニ非スシテ賭博ノ目的タルノ証拠判然ダル時ハ直ニ審問ヲ中止シ不受理ノ申渡ヲ為スヘシ若シ原告被告一方ニ於テ賭博ノ目的ナルヲ申立ツルモ他ノ一方ニ於テ賣買ノ目的タルノ証拠判然タル時ハ審問ヲ中止セスシテ結局ノ裁判ヲ為スヿヲ可シ

第二條　商會呼創立ノ手続

第一節　此條例ヲ遵奉シテ商會呼ヲ創立スルハ專ラ賣買便利ノ為メ其場ヲ設ケ以テ約定取引ヲ保証シ一般信任ヲ得ルニ在レハ其資本金少クモ三万円以上ニシテ發起人ハ十名以上タルヘシ且其資本金ハ百円ヲ以テ一株ト定メ發起人ニテ資本總高ノ半額以上ニ當ル株數ヲ所持スルヲ要ス可シ

第二節　商會呼ノ發起人ハ創立証書（第一号雛形ニ照準ス可シ）及ヒ社中申合規則（第二号雛形ニ照準ス可シ）ヲ議定シテ各通毎ニ記名調印シ別ニ創立ノ願書ヲ作リ其商會呼ヲ取建ツヘキ地方ノ區戸長ニ與署調印ヲ乞受ケ之ヲ其地方廳ニ差出スヘシ但シ右等願書其他ヲ差出スニハ正副三通ニシテ其一ハ内務省ニ藏メ置キ又一通ハ地方廳ニ留置キ今其一通ヲ商會呼ヘ下付スルノ用トスヘシ

第三節　地方官ハ右發起人負ノ適否等ヲ精察熟考シ以テ其意見ヲ具シ之ヲ内務卿ニ送通スヘシ

第四節　内務卿ハ此願書等ヲ勸業頭ニ附シテ尚地方官ノ意見ヲ審案シ且其業躰成則ヲ調査セシメ以テ許可ヲ與フヘキハ其創立証書并ニ申合規則ヲ内務省ノ記録ニ載セ又其本書ニ官印ヲ鈐シテ即チ創立許可ス可キ旨ヲ地方官ニ指令シ以テ之ヲ請願人ニ下附セシムヘシ

第三條　開業ノ手続

第一節　発起人等ニ於テ商會所創立ノ許可ヲ受ケタル時ハ直ニ其旨ヲ新聞紙又ハ其他ノ方法ニ依リ世上ニ公告シテ他ノ株主ヲ募ルヿヲ得可シ又発起人ハ其募リニ應シタル株主等ト共ニ集會ヲ為シ第五條ノ定規ニ從ツテ差向キ五人以上ノ肝煎及ヒ正副頭取等ヲ撰任スヘシ

第二節　此頭取肝煎等ハ商會所営業ノ確実ナルヲ表証スル為メ資本金總高ノ三分二ニ当ル日本政府ノ公債証書（此公債証書ハ時々相場ノ昂低ヲ以テ増減ス可シト雖モ須テク明治七年大藏省乙第二十八号達ノ價格ニ減少セサルヲ要ス）又ハ現金ヲ其地方廳或ハ公立ノ銀行ニ預ケ以テ公印又ハ社印ヲ鈐シタル預リ証書ヲ乞受ケ其正寫ヲ開業願書ニ添ヘ地方廳ヲ経テ之ヲ勸業頭ニ差出ス可シ

第三節　商會所ヨリ右ノ手続ヲ以テ預ル所ノ保証金ハ仮令現金ニテモ其地方廳又ハ公立ノ銀行ニ於テ之ヲ他ニ使用ス可カラス故ニ又別ニ利子等ヲ拂遣ハス下無ルヘシ尤モ商會所ニ於テ別段ノ約定ニ拠リ銀行ヘ預ケタル時ハ其方法約定ノ旨趣ヲ詳記シ地方廳ヲ経テ勸業頭ニ届出ヘシ

第四節　勧業頭ハ右商會所ノ名ヲ以テ地方廳或ハ公立ノ銀行ニ預ケタル公債証書又ハ現金ノ実額其資本総高ノ三分二ニ相違ナキ実証ヲ検シ且其残高三分ノ一ヲ以テ営業ノ入費ニ供シ差支無キト思考スル時ハ之ヲ内務卿ニ具状シテ開業免状（第三号雛形通）ヲ交附スヘシ又勧業頭ハ開業ノ後何時ニテモ其商業ノ模様ヲ検査シ賣買主ヨリ差入タル証拠金ノ合高ヲ見合セ凡リ其四分一ニ應スル丈ケノ高ニ資本金ヲ増加セシムルノ権有ルヘシ

第五節　商會所ニ於テ右ノ開業免状ヲ得タル上ハ其免状ノ写ヲ添ヘ何月何日ヨリ其商業ヲ創ムヘキ旨ヲ新聞紙又ハ其他ノ方法ニ依リ之ヲ世上ニ公告シテ始テ之レニ従事スルヲ得ルヘシ

第四條　役員ノ規則

第一節　商會所ノ役員ハ専テ営業ノ事務ヲ管理スルニ在リ故ニ賣買ノ本人又ハ仲買人トナルヿヲ許サヽルヘシ

第二節　商會所ノ役員ト称スルモノハ左ノ如シ

頭取

副頭取

肝煎　此内（曰議掛　出検査掛　納掛）

支配人

書記方

勘定方

簿記方

右ノ如ク製定スト雖モ時々ノ便宜ニ依リ稍之ヲ廃置

兼摂スル等ノ□アル可シ

第五條　役員撰舉ノ規則

第一節　商會所ハ毎年一度株主ノ定式集會ヲ以テ肝煎等ヲ撰任シ舊員ト交代セシムヘシ

第二節　商會所ノ肝煎ヲ撰舉スルニハ投名法ヲ以テ少クトモ十株以上ヲ所持シタル株主ノ中ヨリ之ヲ舉ケ右撰舉ニ應シタル肝煎ハ其同僚中ニ就キ正副頭取ヲ推任シ又正副頭取ハ肝煎ノ分掌各其等ヲ議定スヘシ

第三節　若シ肝煎又ハ頭取ニ適当スヘキ人才アリテ衆目之レニ帰スト雖モ其者ノ所持株不足スルヲ以テ其撰ニ挙ケ難キ片ハ此人ヲシテ其定額ニ充合ヲ追ノ金高ヲ増加セシメ然ル后ニ之レヲ撰任スルヲ得ヘシ

第四節　頭取肝煎等ノ任ノ節ハ各其所持株ハ全ク自家ノ財本ニ相違之レ無ク且商會所ノ為メ抽誠尽力ヲ以テ規則ヲ奉シ制限ヲ守リ毫モ詐偽軽忽等ノ挙動ナキ旨ノ誓詞ヲナサシムヘシ

第五節　頭取肝煎ノ在職ハ一ケ年限リト定ムト雖トモ撰挙ニ寄リ重年スルノ理アルヘシ又其内事故アリテ欠員アル時ハ肝煎ノ衆議ヲ以テ之カ代任権任ノ者ヲ命スルカ又更ニ新員ヲ要スレハ必ラス十日前ヨリ其旨ヲ通知シテ臨時ノ総會ヲ開キ以テ之レヲ撰任スヘシ

第六節　支配人以下ノ役員ハ肝煎其衆議ニ依リ必ス社中ノ人員ニ限ラス又社外ヨリ之レヲ撰任スルヲアルヘシ

第六條　頭取肝煎ノ職任

内務省

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 266-5

第一節　頭取ハ営業一般ノ事務ヲ総轄シ他ノ役員ヲ指揮シテ其職任ヲ尽サシメ以テ株主及ヒ社員ニ對シ商會所一切ノ責ニ任スヘシ

第二節　副頭取ハ常ニ頭取ヲ輔ケ其事務ヲ共成シ時ト

シテハ其代理ノ任ニ當ルヘシ

第三節　肝煎ハ衆議ヲ以テ支配人以下役員分掌ノ課程及ヒ其権限俸給并ニ過怠ノ處分等ヲ定メ便宜之ヲ廉貶黜陟シ又社中ノ爭論ヲ判決シ金穀ノ出納ヲ管理シ併セテ社中處務上ノ成例ヲ廃立シ事柄ニ依リテハ株主ノ衆議ヲ取ランカ為メ臨時ニ之ヲ招集スルノ権アルヘシ

第四節　肝煎ノ會議ハ毎月何ノ日何回ト定メ常ニ頭取ヲ以テ議長ト為ス可シ又此會議ニ於テ発言ノ権利ハ一人ニ付一説ト定メ衆説ヲ取リテ其議事ノ決定ト為シ若シ可否ノ数相半スル時ハ議長ノ判決ニ任カス可シ

第五節　右會議ニ当リ出席ノ定員其半ハニ充タサル時ハ其議事ヲ始ム可カラス但急遽ノ事件ハ此限ニアラサルヘシ

第六節　肝煎ハ頭取又ハ其同僚中ニ於テ職任ニ不相当ノ行ヒアルカ又ハ之ヲ怠ル者アレハ時宜ニ寄リ之ヲ免職スヘシ尤モ是等ノ場合ニ於テハ臨時ノ変員ヲ命シテ其是非ヲ討議シ次會肝煎無名投昏ノ法ヲ以テ三分ノ二以上ノ説ニ従ヒ其可否ヲ決ス可シ

第七節　肝煎ハ株主社員ノ所為ヲ整督シ又其手ニ設ケタル私則慣習法ヲ廃止スルノ権アル可シ尤此権ヲ施

スニハ先ツ集會ニテ之ヲ評議シ次回ノ集會ニ於テ之ヲ決定施行スヘシ

第八節　肝煎ハ社外ノモノト社員トノ間ニ起リタル差縺ニ於テ一切関係スル事無カルヘシ尤社外人ノ為メ仲買ヲ勤メタル社員退社又ハ逃亡死去セシ等ノ場合ニ当リ其賣買本主ト相手タル社員トノ間ニ差縺レアル時ハ此限ニアラサルヘシ

第九節　前節末段ノ場合ニ於テ社外ノ賣買本主ヨリ肝煎ノ處決ヲ請求シタル時ハ社員同様ニ其處決ヲ守リ決シテ違背スマシキ旨ノ誓詞ヲ為サシメ然ル後之カ處分ヲナス可シ

第七條　商議掛ノ職任

第一節　商會所ニ於テハ其便宜ニ任カセ肝煎ノ内若干員ヲ商議掛トナシ其職掌ハ該社ノ評議主役ニシテ常ニ営業事務上ニ於テ得失利害ヲ商量討論シ及ヒ凡百ノ施設上ニ於テ之カ議案ヲ起シ以テ総會又ハ肝煎ノ集議ニ付シ併セテ社中一般ノ疑問ニ答辨シ及ヒ違約人審判等ノ事ニ任ス可シ

第八條　出納掛ノ職任

第一節　商會所ハ肝煎ノ内二名以上ヲ以テ出納掛ト為ス可シ此掛リハ商會所ニ関スル金穀出納ノ主役ニシテ資本金元ニ身元金証據金代金及ヒ廩穀其他ヲ管守出納スル等ノ事ニ任シ併セテ銀行引合等ノ諸務ヲ擔当スヘシ

第九條　検査掛ノ職任

第一節　検査掛ハ商會所ノ監察主役ニシテ肝煎ノ中便

宜之レニ充テ常ニ金穀ノ出納ヲ監シ諸帳簿計筭ノ正否ヲ點検シ併セテ営業ノ実況ヲ視察シ現務ノ得失ヲ指摘シテ其顛末ヲ記録シ以テ之ヲ頭取肝煎及ヒ株主一同ニ報告スル等ノ事ニ任ス可シ

第二節　検査掛タル者若シ其職務ヲ怠タルカ或ハ依怙贔負等ノ所業顕然タルトキハ其事件ノ軽重ニ因リ過怠金ヲ課スルカ又ハ之ヲ放免スルカ商會所ニ於テ適当ノ處分ヲ設ケ以テ一層其責任ヲ重クスヘシ

第十條　株主ノ規則

第一節　凡リ株主トハ即チ商會所ノ本主ニシテ其資本ノ一部ヲ入金シ此入金高ニ應シタル株券ヲ所持シ以テ其株数相当ノ権利ヲ有シ且営業上ノ損益ヲ負擔スルカ故ニ時々ノ景況ヲ傍視シテ金負及ヒ勘定帳簿ノ覧閲ヲ要求スルノ権アルヘシ

第二節　株主ハ商會所ノ役員タラサル時間何時ニテモ肝煎ノ承認ヲ経賣買ノ本人又ハ仲買人トナルヿヲ得ヘシ但其節ハ別段証人ヲ要セスト雖ヒ社員定規ノ身元金ヲ差出サシメ又賣買上ニ於テハ都テ之ヲ社員ト唱フ可シ

第三節　株主ハ假令何等ノ事故アルヒ商會所解散ノ期ニ至ラサル時間ハ其株金ヲ取戻スヿヲ得サルヘシ

第十一條　株式授受ノ規則

第一節　株主ハ肝煎ノ承認ヲ受ケタル上ニテ其所持ノ株式ヲ賣買譲與シ又ハ質入抵當ト為スヿヲ得ヘシ但シ株主其株ヲ質入抵當ト為シタル時間ハ総集會ニ於テ議事発言ノ権ナカル可リ又肝煎等ノ撰挙ニ應スル

ヿヲ得サル可シ

第二節　株主其株式ヲ賣渡シ又ハ譲渡シヲ為ス時ハ其賣買授受雙方ヨリ連印ノ証昏ヲ商會所ニ差出ス可シ而シテ商會所ハ此証昏ヲ請取リシ時ニ於テ株主帳ノ姓名ヲ昏改ム可シ若シ其証昏ヲ差出サヽル時ハ賣買授受ノ効ナシトスヘシ

第十二條　社員ノ規則

第一節　凡ソ商會所ニ於テ社員ト称スルモノハ肝煎ノ承認ヲ経相当ノ身元金ヲ差入レテ自己ノ賣買又ハ社外人ノ依頼ヲ受ケ仲買トナリ之ニ従事スルモノヲ指スヘシ但仲買トナルトキハ其依頼人ノ姓名住所等ヲ肝煎ニ申告スヘシ

第二節　社員新ニ入社セント欲スルモノハ商會所ニ於テ定メタル期日迄ニ昏面ヲ以テ肝煎ニ申出ヘシ此昏面ニハ姓名住所年齢（二十一未満ヲ許サス）商業（米商人ニ限ルヘシ）等ヲ記シテ之レニ調印シ且其株主社員又ハ舊故親類ノ中二名以上証人ノ連印ヲ要ス可シ

第三節　社員ノ身元金ハ専ラ営業上此條例規則ヲ遵奉スヘキ意ヲ表シ或ハ違約ノ償弁ニ供用スヘキモノトスレハ少クトモ金百円以上ト定メ尚増加スルハ商會所ノ協議ニ任ス可シ

第四節　社員ノ社ノ期限ハ一ケ年ト定メ毎年一度或ハ数度ノ例日ヲ以テ任撰ノ期トナスヘシ且其間自己ノ都合ニヨリ退社セント欲スルトキハ其旨趣ヲ昏面ニテ肝煎ニ申出可シ肝煎ハ其次第ヲ記シ短クトモ十日間之ヲ張出シ置キ商會所ニ連帯シタル計算上ノ関係ナキ

ヲ認メタル上ニテ其退社ヲ許シ身元金ヲ返付シテ証人責任ヲ解リ可シ

第五節　社員若シ商會所又ハ社中ニ對シ不正不実ノ所業アルヲ以テ其者ヲ除名スヘキ場合ニ至テハ肝煎ノ衆議ニ依リ其証人タルモノヲシテ三十円以下ノ過怠料ヲ出サシムヘシ

第十三條　社員手代ノ規則

第一節　社員タル者其名代トシテ手代ヲ商會所ニ出サント欲スルトキハ昏面ニテ其趣ヲ肝煎ニ申出ヘシ此昏面ニハ当人ノ住所姓名年齢二十一未満ヲ許サス且委任ノ制限ヲ細記スヘシ

第二節　肝煎ハ右ノ昏意ヲ商會所ヘ十日ノ間張出シ置キ異存ノモノ無キヲ認メテ之ヲ承諾スヘシ此承諾ヲ経スシテ手代ヲ商會所ニ出スヘカラス

第三節　手代ノ姓名ハ其主人ノ姓名ト共ニ商會所ニ掲示シ其主人ヨリ別ニ報知ナキ時間ハ其手代ノ取結タル約定ハ都テ主人ノ引受タルヘシ

第四節　手代ニ暇ヲ遣ハスカ或ハ其委任ノ権ヲ解クトキハ主人ヨリ直ニ肝煎ニ報知シ肝煎ハ其趣ヲ商會所ニ掲示シテ其姓名ヲ取消スヘシ

第五節　主人除名セラルヽトキハ其手代モ同様出入ヲ禁止スヘシ又手代違約人トナルトモ主人ニ於テ其損毛ヲ債主ニ償フトキハ手代ノ出入ヲ禁スル迄ニテ其主人ハ尚ホ社員タルヲ得ベシ

第十四條　商會所一般ノ規則

第一節　商會所ハ其社員ノ間ニ取結ヒタル賣買ノ約定

ヲ監護シ其取引ヲ確実ナラシムルヲ以テ其責ニ任スルカ故ニ総テ賣買上ノ差縺ヲ和解シ又其違約ノ處分ヲ判決スル等即チ当然ノ義務トナスヘシ

第二節　商會所ニ於テ社員ノ身元金及ヒ証拠金ヲ他ニ使用スヘカラス

第三節　商會所ニ於テ條例ノ旨趣ヲ放過シ又ハ商會所ノ規則不取締ヨリ引起セシ損害ハ頭取肝煎其責ニ任シ若シ又帳簿ノ乱雑出納ノ濫漫或ハ計筭ノ差違等ヨリ生シタル損耗過怠ノ償辨ハ分掌ノ各員其責ニ任シテ之ヲ擔当スヘシ

第四節　商会所ニ於テ若シ此條例ノ趣旨ニ背クカ又其規則ヲ犯スカ或ハ各員ノ之レニ背犯シタルヲ不問ニ措キ又ハ之ヲシテ背犯セシメタル等ノ実証アルトキハ其事件ノ軽重ニ依リ三十円ヨリ少カラス三百円ヨリ多カラサル罰金ノ申渡シヲ受ク可シ

第十五條　賣買取引ノ規則

第一節　此條例ヲ遵奉シタル商会所ノ賣買ハ必ス其約定ニ據テ現物ノ取引ヲ為スヘシ而シテ其取引ハ之ヲ現場定期ノ二様ニ分テ其期限長クトモ三ケ月ヲ踰ユ可カラス

第二節　賣買ノ約定已ニ成ルモノハ商會所ニ於テ双方ノ証據金ヲ収預シ其取引ヲ監護確実スヘシ尤モ其証據金ハ少クトモ賣買金高十分ノ一ツヽヲ下ルベカラス又相場高低ニ依テハ尚追証據金ヲ差入シメ或ハ数日間休業ノ場合又ハ取引ノ期限ニ迫ル以前証拠金ヲ増加セシムル等適宜ノ例格ヲ定メ其差入レ時間ト共ニ

之ヲ商会所ニ明掲スヘシ

第三節　諸証拠金ハ豫テ商会所ニ定メタル規程ニ随ヒ之ヲ差入ルヘキモノトス

第四節　約定期日ニ至テハ豫テ商会所ニ定メタル時限迄ニ売方ヨリハ銘柄（現米ノ品種）蔵所（倉庫ノ所在）ノ昏印買方ヨリハ代金ヲ差出サシメ而シテ拠リ役負ハ売買主ト共ニ其在所ニ就キ品位俵数等ヲ点検シ以テ故障無キハ立會封印ヲ為シ其蔵出シ切手ヲ買方ニ又其代金ヲ売方ニ渡シ且蔵出シ相済ミタル上ニテ双方ノ証拠金ヲ決算昏ヲ添ヘ之レヲ返付シテ其取引ヲ終ルヘシ

第五節　約定期限中ニ甲ヨリ乙ニ売リシ米ヲ乙ヨリ甲ニ買戻シ又ハ甲ノ乙ヨリ買シ米ヲ甲ヨリ丙ニ売ルトヲ得ヘシ

第六節　売買米授受ノ成規並ニ違則ハ定例其他蔵所代米ノ制限等ハ商會所ノ便宜ニ随ヒ之ヲ豫定シテ同一ニ確守セシムヘシ

第十六條　手数料並ニ口銭ノ規則

第一節　商會所ニ於テ受収スヘキ手数料ハ多クモ売買金高千分ノ二ニ超ユヘカラス但定期現場相当ノ差等ニヨリ之ヲ製定施行スヘシ

第二節　仲買口銭ハ其頼人トノ示談ニ任スヘシト雖モ商會所ニ於テ凡ソ其制限ヲ立ルモ亦妨ケナシトスヘシ

第三節　手数料口銭ハ其決算ノ期ニ際シ他ノ債主ニ先ツテ之ヲ受収スルヲ得ヘシ

第十七條　背則違約處分ノ規則

内務省

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 266-5

第一節　商會所ノ規則ニ背キ或ハ違約人ノ過怠等ヲ商會所ニ於テ處分スルニハ重ク圧之ヲ除名シ且其株金身元金并ニ約定証據金ノ内ニ止ルベシ

第二節　賣買主ニ於テ違約ヲナシタル處分ノ決筭法ハ商会所ニ於テ之ヲ豫定シ其相手方ヘ辨償セシムベシ左モ此償ハ其違約ノ為ニ失シタル利益ト損害トニ止ルベシ

第十八條　総會集議ノ規則

第一節　商會所ハ毎年一度又ハ数度例日ヲ定メテ株主ノ定式集會ヲ開クベシ但此集會ニ於テハ頭取肝煎ノ撰挙并ニ商會所営業ノ実況及ヒ計筭ノ得失ヲ一同ニ報告スルヲ定務ト為スベシ

第二節　株主五名以上ノ請求又ハ肝煎ノ衆議ニ依リテ臨時集會ヲ開クヿヲ得ベシ

第三節　此條ノ集會ニ於テ株主ハ一株ニ付一説ヲ発スルノ権アルベシト虽圧之ヲ数フルニハ須ク一人ノ所持株十箇マテハ毎株一説ツヽト筭シ十箇以上百箇マテハ五株毎ニ一説ツヽヲ増シ又百箇以上ハ十株毎ニ一説ツヽヲ増加スベシ且其商会所ノ役員タル時間ハ発言スルヲ得ルベシ

第四節　此集會ノ決議法ハ都テ商会所ノ便宜公平ト思考スル處ニ依テ之ヲ定ム可シ

第五節　議長ハ頭取其任ニ宛ルカ又ハ別ニ株主中ヨリ撰挙スルモノト為スベシ

第六節　株主ハ此條ノ集議ニ当リ代人ヲシテ発言セシムルノ理アルベシ左モ其代人ハ商会所ニ於テ自ラ其

権ヲ有スルモノニ変任スヘキ
第七節　申合規則ヲ加除改正スル等其他商会所一般ニ
関係シ株主ノ集議ヲ以テ決定シ
ニ記シ地方廳ヲ経テ内務卿ニ届ケ出ヘシ若シ決議
ノ日ヨリ往復日数ヲ除キ十五日以内此届出ヲ為サヽ
ル時ハ其後ノ怠慢時間一日毎ニ五円ノ罰金ヲ申付ヘ
シ

第十九條　資本金増減ノ規則

第一節　商会所ニ於テ其資本金高ヲ増減セント決議シ
タル時ハ頭取肝煎其次第ヲ詳記シ地方廳ヘ願出又地
方官ハ其意見ヲ具シテ之ヲ内務卿ニ上申シ其指揮ヲ
受ケ可シ

第二節　商會所ハ右増減ノ許可ヲ得テ直ニ創立募金ノ
手続ニ随ヒ之ヲ世上ニ公告シテ増減セシ名前昏ヲ取
纏メタル上地方廳ヲ経勧業頭ヘ届出テ地方廳又ハ銀
行ニ預ケタル営業保証ノ金額ヲ増減スヘシ

第二十條　損益金計算ノ規則

第一節　商会所ノ頭取肝煎ハ毎年両度以上営業ノ総決
算ヲ為シ其内税金其他一切ノ社費ヲ引去リ尚積立金
アルハ之ヲ精算シ残リ損益高ヲ以テ株数ニ割リ合セ
之ヲ株主ニ分賦スヘシ

第二節　右計算表ハ株主ヘ分賦ノ日ヨリ十五日以内地
方廳ニ差出シテ勧業頭ニ届出又之ヲ新聞紙等ニ載セ
一般ニ公告スヘシ

第二十一條　納税及ヒ積金ノ規則

第一節　商会所ノ税金ハ前半年分ハ七月中後半年分ハ

翌一月中之ヲ地方廳ヘ上納シ
續ニ依テ大藏省ヘ送達スヘシ

第二節　商會所計算ニ於テ株主等ヘ配當スヘキ純益金
一ケ年一割（百分ノ十）以上ノ利息ニ當ル時ハ肝煎ノ衆議ヲ
以テ割賦高ノ内何分カヲ引去リ之ヲ積立テ非常ノ準
備金ト為スヿヲ得シ

第二十二條　報告ノ規則

第一節　商會所ノ頭取支配人ハ地方廳ヲ經テ左ノ報告
ヲ勸業頭ニ出スヿヲ得シ

第一　商會所一ケ月實際報告

是ハ毎一ケ月賣買約定ニ係リタル金額ノ合高ヲ
揭ケ内現場定期ノ取引ヲ區分シ之ニ平均相場ヲ
附シテ翌月十五日限リ之ヲ差出スヿヲ得シ

第二　同上一ケ年報告

是ハ毎月報告ノ例ニ倣ヒ一ケ年分ヲ合セテ之ヲ
詳記シ翌年三月一日迄ニ差出スヘシ

第三　總計表報告

是ハ一ケ年營業ニ係リタル金員出納高ヲ揭ケ内
株金並ニ手數料等ノ總收入ヨリ稅金及ヒ配當金
其他社費一切ノ遣拂又ハ積立金ノ有無等ヲ明載
シ之ヲ翌年三月一日迄ニ差出スヘシ

第四　株主社員姓名表報告

是ハ姓名族籍住所株數或ハ身元金高等ヲ記シ定
式據仕集會ノ日ヨリ三十日ヲ限リ之ヲ差出スヘ
シ

第五　役員上仕報告

是ハ頭取副頭取肝煎支配人新仕ノ都度其印鑑ヲ添ヘ十五日以内之ヲ差出スヘシ

第三節　右諸報告ニ依テ定メタル所ノ期限ヲ怠ルトキハ其怠慢ノ時間一日毎ニ金五円ノ罰金ヲ申付クヘシ

第二十三條　官員検査ノ規則

第一節　商會所ノ営業検査ノ為メ時トシテ衝業寮又ハ地方廳ヨリ官員ヲ派出スルコトアルヘシ

第二節　右検査ノ官員ハ商會所ノ役員ニ命シ勘定帳簿其他仁百ノ書類物品ヲ差出サシメ又其疑件ニ付テ之ヲ推糺スル等ノ権アルヘシ是等ノ場合ニ於テ若シ猶豫抗拒等ノ挙動有ルトキハ五十円以下ノ罰金ヲ其本人ニ申付ヘシ

第二十四條　記録保存ノ規則

第一節　商會所ノ創立証書並ニ申合規則及ヒ肝煎撰挙社中集會其他ニ就テノ報告議件等凡ソ其商會所ニ関係ノ書類ハ一切之ヲ記録ニ綴届シ頭取肝煎之ニ記名調印シ以テ後日ノ証拠参観ノ為メニ蔵置クヘシ

第二十五條　條例改正ノ規則

第一節　日本政府ハ此條例ヲ便宜改正シ或ハ廃止スルコトアルヘシ

右之通制定候事

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 266-5

第一号　創立証書ノ雛形

米商會所創立証書

明治一年一月大日本政府ニ於テ第一号公布條例ノ旨趣ヲ遵奉シ米商會所ヲ創立シテ其商業ヲ経営セント謀リ此証書第五條ニ連名シタル者協議シテ左ノ創立証書ヲ取極メ候也

第一條

商會所ノ総員ハ條例ノ旨趣ヲ遵奉シ併セテ申合規則ヲ確守スヘシ

第二條

此商會所ハ名号何々國名郡名又ハ所在ノ地名等米商會所ト称スヘシ

第三條

商會所営業ノ年限ハ開店ノ日ヨリ満ー箇年タル可シ

第四條

此商會所ノ府縣第ー大區ー小區ー町港ー番地ニ取建ツ可シ

第五條

此商會所ノ資本金ハー万圓ニシテー百株トナシ其内発起人ニテ所持スヘキ株數并ニ其属籍住所姓名等左ノ表ノ如シ

株數	属籍	住所	姓名
ー株 此金ー百円	ー府縣華士族平民	ー府縣第ー大區ー小區ー町ー番地 居住寄留	某
ー	ー	ー	ー
合株數 此金ー万円			総計幾人

第六條

此商會所ノ株主及ヒ社員ハ内國人ニ限ル可シ

此証書ハ株主一同ノ利益ヲ謀ル為メ取極タル証據トシテ各姓名ヲ自記調印シ追テ入社候モノハ順次連署セシメ可申候也

年号月日

株主等連名印

内務省記録印

第二号　申合規則ノ雛形

何々米商會所申合規則

此米商會所ハ明治一年一月第一号公布條例ノ旨趣ヲ遵奉シ賣買上尚緊要ノ條件ニ於テ左ノ總員確守ス可キ申合規則ヲ議定シタルモノ左ノ如シ

第一條

建米并ニ建石ノ事

第二條

取引定期ノ事

第三條

賣買米帳入日限時間ノ事

第四條

諸証拠金ノ定額及ヒ差入レ時限ノ事

内務省

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 266-5

第五條
証拠金預ル方ノ事
第六條
約定期限内ニ於テ買戻シヲ為シ又ハ甲ノ乙ヨリ買シ米
ヲ甲ヨリ丙ニ賣渡ス等順序ノ事
第七條
受渡米検査并ニ廻シ方法ノ事
第八條
代米及ビ藏所制限ノ事
第九條
不足米金又ハ悪性等處分方ノ事
第十條
銘柄違藏所違等其他過怠法ノ事

第十一條
手數料并ニ口銭定額ノ事
第十二條
營業時間及ビ休業日等ノ事
第十三條
定式総會并ニ肝煎小集例日ノ事
第十四條
計算期月ノ事
第十五條
社員撰任期日ノ事
第十六條
社員身元金定額ノ事
第十七條

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 266-5

此申合規則ニ於テ實際上若シ不都合有之節ハ肝煎ノ衆議ヲ以テ之ヲ補除改正シ其都度官ノ許可ヲ得テ施行スヘキ事

右取極タル申合規則ハ商會所営業上何レモ確守スヘキ証拠トシテ様左ニ社員一同記名調印スヘキモノナリ

年号月日

株主姓名調印

社員姓名調印

内務省記録印

右雛形ニ示シタル條々及ヒ商會所ニ於テ緊要ナリトスル條件ハ宜シク之ヲ議定掲載スヘシ

第三号　開業免状ノ雛形

開業免状

何々米商會所

右差出シタル創立証書ニ據リ此商會所ハ明治一年一月日本政府第一号公布米商會所條例ヲ遵奉履行ス可キ分明ナルニ付今此開業免状ヲ交付シ自今其業ヲ営ム事ヲ許可スルモノ也

右ノ証拠トシテ余ハ内務卿ノ命ヲ奉シ爰ニ姓名ヲ自記シ官印鈐スルナリ

年号月日

勧業頭名印

官印

内務省

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 266-5

第四号 實際報告ノ雛形

明治一年一月中實際報告

何々米商會所

	現場取引米	平均壱石代	本月何月限	平均壱石代	二ヶ月一月限	平均壱石代	三ヶ月一月限	平均壱石代	総計米
一日	十万千百十石 ○○○○○○	十円十錢厘 ○○○○○	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○○○○○	百十万千百十石 ○○○○○○○
二日	〃〃〃〃	〃〃〃〃	無シ		〃〃〃〃	〃〃〃〃	無シ		〃〃〃〃
三日	休業								
四日	〃〃〃〃	〃〃〃〃	〃〃〃〃	〃〃〃〃	無シ		ナシ		〃〃〃〃
五日	ナシ		〃〃〃〃	〃〃〃〃	ナシ		〃〃〃〃	〃〃〃〃	〃〃〃〃
以下至末日									
合計	百十万千百十石 ○○○○○○○	〃〃〃〃	〃〃〃〃	〃〃〃〃	〃〃〃〃	〃〃〃〃	〃〃〃〃	〃〃〃〃	千百十万千百十石 ○○○○○○○○

右違算無之候事

年号月日

頭取姓名印

検査掛姓名印

支配人姓名印

内務省

第五號　計算表雛形

明治一年前後半季計算表

何々米商會所

入額		出額	
手數料	若干	稅金	若干
利息金	〃 〃	役員俸給	〃 〃
過怠金	〃 〃	不時賞與	〃 〃
沒収金	〃 〃	社費	〃 〃
物品賣拂代	〃 〃	建築修繕或ハ地料	〃 〃
株金準備金ヨリ操替高	〃 〃	操替金拂入高	〃 〃
何々	〃 〃	何々	〃 〃
総計	〃 〃		〃 〃

差引

純益金若干　内譯

金若干　株主ヘ配当ス可キ分　但一株ニ付金何円何銭

金若干　積立準備ヘ組入可キ分

別途計算

資本株金若干		積立準備金若干	
金若干 現金若干 公債証書〻〻	地方廳或ハ銀行ヘ預高	金若干 現金若干 公債証書〻〻	銀行其他ヘ預高
金〻〻	建築費其他操替高	金〻〻	公債証書或ハ不動産
金〻〻〻〻	櫃中現在高	金〻〻	櫃中現在高
身元金若干		商會所々有物	
金若干	公債証書	地所	若干坪
金〻〻	現金	建物	〻〻〻

右之通違算無之候事

年号月日

頭取姓名印

検査掛〻〻

出納掛〻〻

第六號　役員上任報告ノ雛形

何々米商會所役員印鑑御届

年號一年一月何ノ誰義ハ當商會所ノ頭取（副頭取肝煎又ハ支配人）ニ撰ハレ其印鑑ハ別紙之通ニ候也

年号一月日

何々米商會所

頭取姓名印

一勸業頭名宛

右二通但一通ハ地方長官名宛之事

内務省

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 266-5

（別紙）

用紙厚紙竪五寸幅一寸五分

何々米商會所

印鑑

印

何役何ノ誰

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 266-5

215831
7
昭和25年10月18日

発ノ勧千百四十壱ノ内

兼テ内務卿ヨリ上陳有之居候米商會所條例
即發布ノ儀ニ付先般尚又再申ニモ相成候通
此際五六日間モ遅延候様ニテハ無餘義臣等営
業ノ取纏方ニ於テ今又延期致シ候ハテ不叶
場合ニモ立至リ丁申ニ付一日モ疾ニ即發令有
之候様致度此段及即掛合候也

明治九年一月

内務正權大丞

史官

即中

内務省